

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



# ぱらネット

第5号



壇上で意見発表する、長根さん、一志さん、阿久津さん（左から）

〈障害者自立支援法学習フォーラム〉

## 障害者自立支援法

### ここが不安ここが問題

（第二回障害者相談員全体研修）

平成十六年十月、「改革のグランドデザイン（案）」として厚生労働省から提示されてから約一年後、新しい障害者福祉サービスの体系が示され、わからないこと、不安なことが余りにも多いまま、障害者自立支援法が成立しました。相談員としても、これでは相談に答えられないというので、平成十七年十二月十九日(月)彩の国すこやかプラザを会場に、参加者を相談員以外の方にも拡大して学習フォーラムを開催しました。

最初に、障害当事者として筋ジストロフィー患者の一志さん、視覚障害者の長根さん、自閉症の子を持つ阿久津さんからそれぞれの思いを語っていただき、鴻沼福祉会常務理事の斎藤なを子氏から自立支援法についての説明をうけ、みんなで意見交換をしました。二百人入る会場は満員、関係者の関心の強さが伺えました。

開催については、さいたま市障害者施設連絡会の協力をいただきました。

# いっから広げよう、障害を理解する。いっからいっ

今年度、事業委員会の取り組みを通して、私たちはより深く、他の障害の団体と関わるようになりました。実施された事業に参加した人たちはその障害の人たちが抱えている心のありようまで汲みとることができたでしょうか。

## 難聴者・中途失聴者協会

### 手話教室

〈参加者〉 みなわ会 新井加代子

事業委員として他団体の事業参加を模索していた時、偶然にも私は一寸したアクシデントに巻き込まれました。茶の間で一人テレビと対座していた時、突然その声が途絶え、音声の無いまま流れ続ける画面の不気味な空間に取り残されました。それは一瞬言葉を失う程の動転でしたが、程なくテレビの耐用年数で起こりうる音声不良と言う結末で、この瞬間のドラマは幕となりました。

娘の発病以来、心身の障害への関心はナイーブになり、特に加齢と共に中途障害への不安や危機感が過剰反応しての一人芝居：この時の疑似体験が後日手



講師のみごとな解説に思わず手話の世界に…

話教室で中途失聴を現実を受け止めたお二人の体験談を通して障害への当惑いや驚き、苦しみ、加えて絶望感等々、私のそれは比すべきもなく大きく、重いものでしたが、私なりに切実に強く心に響きました。

手話講座は十二月四日から五回シリーズで開講しました。当

初私は軽い気持ちでの参加でしたが、初回より手話の生まれるルーツの多彩さ、深さ、広さ、そして講師の楽しい指導の虜になり回を重ねる毎に足を止めることができなくなりました。苗

字が歴史上の人物の彼方から、自然、物象に、様々なイメージが二本の手から次々と言葉となつて躍り出ます。受講生全員が手話学習に於いてはタイムスリップした幼児の世界、講座終了のその日全員自分の名前と短いお話ができました。手話教室に参加して私は又新たな社会資源を身近に感じました。

五日間の講座を支えた手話通訳と要約筆記のスタッフの見事な連携プレー、その力強いエネルギーが今も深く熱く心にも残っております。

## オストミー協会

### なくしてはならない

### 大切な事業

〈参加者〉 身障福祉協会

望月 武

食い入るような目でスライドを見つめ、講師である自治医科大学付属大宮医療センター外科医師の清崎先生のお話に聞き入っている、会場いっぱい参加者に圧倒されました。

つい最近までオストメイトやオストミーという言葉自体も知りませんでした。昨年度に続き二度目の参加でしたが、改めてその当事者と家族の大変さを思い知らされました。

癌で大腸や小腸が冒され、切除しなければ命も危ないというぎりぎりの中での選択で、人工肛門や人工膀胱を装着せざるを



得なかったという当事者や家族の参加者に対して清崎先生は、

- ◎術後の後遺症と対処法
- ◎ストーマ造設に伴う合併症
- ◎精神的、社会的支援
- ◎腸閉塞に対する予防

等々について、スライドを使って熱心にお話しされ、講演後も切実な質問が次々に出されましたが、一つ一つ丁寧に答えていらっしゃったのがとても印象的でした。

清崎先生の講演に続いて、「ストーマケアについて」というテーマで日本看護協会認定看護師の前田さんが「ぜひ覚えて欲しいこと」として、ストーマの種類、ストーマの大きさ、器具の名前、手術した年など、不慮の災害に必要ですから、必ずメモをして携行しましょうというように、当事者や家族の不安解消に向けて細かくお話しされておりました。

「毎日死と隣合わせにて生きている」という当事者にとってはこのような医療講習はなくてはならないものだと思感いたしました。今後とも引き続き計画し、不安を抱えて生きている多くの方々に、喜ばれる事業でありたいものです。

#### 聴覚障害者協会

### 男の料理教室

〈参加者〉難聴者・中途失聴者協会

川原 英夫

一月二十九日、生活訓練の「料理教室」が開かれました。

手話通訳・要約筆記付きでも

あり、毎日美味しい料理を作ってもらっているこの身としては、お母さんが万一病気などで動けなくなつた時くらいは自分で美味しいものを作れなくては！と参加しました。

講師は国際クッキングスクールの副校長の内堀恵子先生です。いただいたレシピには「帯広風小どんぶり」「大根とかにの和風サラダ」「なめこと豆腐のみそ汁」とあり、調理台は久し振りのため、これを全部作るのかと思つたら冷や汗が出ました。

先生の言葉に「面倒と思わず美味しいものを作るといふ心構えが大事」と出て、なるほど！でした。そう思った途端に材料の扱いや切り方が自然に丁寧になり、それだけで美味しいものができそうな予感がしました。

こうして他団体のいろいろな事業に参加してみますと、初めて知った内容があります。料理教室にしても手話教室にしても聴覚障害者は情報保障が大切であること、また、精神障害の事業に参加したとき、結婚が障害



できあがった料理はおいしかったですか

者に力を与えることに感動を覚ええましたし、その障害特性も初めて少し分かったような気がしました。

さて、肝心の料理ですが、ぶた肉を揚げる時に砂糖が焦げ付いたり、多過ぎたりして先生にやり直しを指導戴いたせいか、でき上がったどんぶりやサラダは見た目にはどうかかな？でしたが、やっぱり醤油・みりん同量という調味料配分が決め手か？たれの味はとても美味しく、このレシピと食材の新鮮ささえあれば、家でも作れそうに思いました。

しゅうしょくして  
おとうさんを  
だいじにしてあげたい

T・T

# リレートーク

## わたしはわたし



わたしは中学校をそつぎょうして、うらわ学園にいきました。がいきたくなくなってやめて、すこしたってからかやの木さぎようしょへはりました。

かやの木では、なかでけいさぎようをしたり、しょくいんとかいしゃにのうひんにいたりしました。たのしいでした。でも、しょくいんにいっぱいしんぱいかけてしまったなどおもいました。かやの木さぎようしょからB堂にじっしゅうにいきました。

した。かすてらをつくるしごとでした。一人でできるかな、おばさんたちとなかよくできるかとかいろいろかんがえながらやっています。

じっしゅうがおわってからB堂にしゅうしょくしました。そして、しごとってたいへんだなとおもいました。あさ8じ15ふんから5じ10ぶんまでしごとだから、すごくながくかんじました。ざんぎようも7じころまでやっています。

でも、おきゅうりようは、とてもうれしかったでした。いっぱいもらったからです。おばさんたちともなかよくなって、がんばってしごとをやります。

**T・Tさんプロフィール**  
36才、お母さんは1才のとき亡くなり、姉二人は結婚して家を出て、現在は障害のある父と二人暮らし。作業所へ通って、就職して働きたいと願っている。

ていしました。

いちばんしんらいできるおばさんがちがうばしょにうつってしまつてしごとがたのしくなくなつてしまつて、やめてしまいました。

しばらくうちであそんでいましたが、げんきこうぼうにはいりました。しごとはおそうじです。やすみたいときもあるし、いきたくないときもあります。でも、おそうじにいくのがたのしみです。だいすきなしょくいんさんとあえるからです。

これからわたしがやっていますたいとおもっていることは、げんきこうぼうをやめてしゅうしよくをしたいことです。3きゅうヘルパーをとりたいとおもいます。

いまお父さんと2人でくらししています。すごくやさしいおとうさんです。おとうさんをだいじにしてあげたいです。

# 事務局だより

トリノで冬期オリンピックが開催され、メダルが取れずに苦戦していた日本のチームは、フイギアスケートでたった一個、すばらしい「金」をとりました。

メダルはあつたほうがいいとは思いますが、でも、スキーにせよスケートにせよ、持っている力を精いっぱい出しきつて戦っている選手の顔はすばらしいと思います。

全国障害者スポーツ大会に三年続けて同行し、五泊六日の行程を泣いたり笑ったりしてすごしてみると、こうした非日常の行動の中に生き甲斐を見つけてがんばっている彼女らの思いを継続させ、向上させてあげたいと痛切に思います。

トリノでも、オリンピックのあとパラリンピックがあるとのこと。選手のみなさん、精いっぱい楽しんでください。(A)

発行 さいたま市障害者社会参加推進センター

〒333-0801 さいたま市大宮区土手町

〒333-0801 さいたま市大宮区土手町

大宮ふれあい福祉センター4F  
TEL/FAX

〇四八六五三七二七一

発行人 望月 武  
編集人 浅輪 田鶴子

